

沖縄県立芸術大学附属研究所彙報

I 平成9年度研究業務状況

(1) 二部門以上共通

1. 沖縄伝統文化・芸術に関するデータベース作成のための基礎作業 [担当：全員]
2. 沖縄文化と東南アジア少数民族文化との比較のための調査研究
 - A ラオス国ビエンチャンおよびビエンチャン西北部織物調査 平成9年3月19日～29日 [担当：柳悦州助教授]

(2) 芸術文化学部門

1. 地域文化の調査研究
 - A 『琉球国由来記』の研究 [担当：波照間永吉教授]
 - B 沖縄の神歌の調査研究
 - C 西表島古見の伝統文化の調査研究 [担当：加治工真市教授・波照間永吉教授・森田孫榮調査員・大底朝要調査員・新本定男調査員・赤嶺政信調査員・大城學調査員・小野まさ子調査員・新城敏男調査員]
2. 八重山方言辞典作成のための調査研究 [担当：加治工真市教授]
3. おもろ研究会（平山良明代表）開催 [担当：波照間永吉]
4. 沖縄文化と日本文化の比較文化学的研究 [担当：ホルスト・S・ヘンネマン教授]
5. 公開講座（無料）「芸術文化の受容と比較」（全10回）
 - 第1回 平成9年9月24日 安次富長昭(琉球大学名誉教授)「暮らしの中に見る工芸の根」
 - 第2回 平成9年10月1日 平山 敬二(沖縄県立芸大助教授)「芸術と風土」
 - 第3回 平成9年10月15日 浅野 春男(沖縄県立芸大助教授)「セザン

ヌと日本」

- 第4回 平成9年10月29日 宿輪 哲也(沖縄県立芸大教授)「デザインと工芸の領域をこえて——沖縄の現状」
- 第5回 平成9年11月12日 永井 信一(沖縄県立芸大教授)「仏像の顔・アジアの顔」
- 第6回 平成9年11月26日 佐藤 文彦(沖縄県立芸大助手)「御後絵琉球国王肖像画の展開——図像解釈学(イコノロジー)から見た御後絵——」
- 第7回 平成9年12月10日 宮里 正子(那覇市文化局学芸員)「琉球漆芸と東南アジア」
- 第8回 平成9年12月24日 比嘉 南牛(沖縄県立芸大非常勤講師)「篆刻の歴史と発展」
- 第9回 平成10年1月7日 尾形希和子(沖縄県立芸大助教授)「越境するイメージ——図像の東西伝播——」
- 第10回 平成10年1月21日 金巴望(高麗美術館研究室長)「李朝の焼き物——日本の焼き物にみる美意識と朝鮮の美——」

6. 沖縄研究国際シンポジウム(沖縄大会・シドニー大会)

7. 公開講座(無料)「宮古の歴史物語を読む会」(通年、毎週土曜日開催)

[担当:波照間永吉教授 講師:平良勝保共同研究員・上原孝三共同研究員]

(3) 伝統工芸部門

1. 沖縄織物の研究 [担当:柳悦州助教授]

A 沖縄染織画像データベース作成のための基礎研究とデータ収集

B 沖縄織物の研究

C 鎌倉芳太郎収集紅型型紙画像データベース作成と基礎研究

D 技法研究

2. ラオスの織物文化研究 [担当:柳悦州助教授]

3. 沖縄伝統工芸の研究 [担当:和宇慶朝健教授・島袋常秀助教授]

(4) 伝統芸能部門

1. 沖縄・奄美の民俗音楽調査研究 [担当：久万田晋助教授]
 - A 沖縄県内エイサーの調査研究
 - B 奄美大島の民俗芸能・音楽の調査研究
2. 沖縄古典舞踊の技法研究 [担当：宮城能鳳教授・久万田晋助教授]
3. 沖縄奄美民俗音楽関係資料の収集 [担当：草野妙子教授・久万田晋助教授]
4. 公開講座 (有料)「アジアの楽器に見る音楽文化」(全10回)
 - 第1回 平成10年1月30日 久万田 晋(附属研究所助教授)「楽器の分類法——古代から現代まで——」
 - 第2回 平成10年2月2日 久万田 晋(附属研究所助教授)「楽器の構造と分布」
 - 第3回 平成10年2月4日 寺内 直子(沖縄県立芸大非常勤講師)「大陸から日本に渡来した古楽器——正倉院所蔵楽器を中心に——」
 - 第4回 平成10年2月6日 寺内 直子(沖縄県立芸大非常勤講師)「日本音楽史における楽器の展開」
 - 第5回 平成10年2月9日 草野 妙子(附属研究所兼任教授)「楽器から見たインド音楽の広がり」
 - 第6回 平成10年2月13日 草野 妙子(附属研究所兼任教授)「東アジアの琴箏類の広がり」
 - 第7回 平成10年2月16日 平野 昭(沖縄県立芸大助教授)「ヨーロッパにおける楽器の展開——鍵盤楽器を中心に——」
 - 第8回 平成10年2月18日 金城 厚(沖縄県立芸大助教授)「アジアの中の三線——撥弦楽器の分布から——」
 - 第9回 平成10年2月20日 福岡 正太(国立民族学博物館助手)「東南アジアの瘤付青銅打楽器——ガムランを中心に——」
 - 第10回 平成10年2月23日 金城 厚(沖縄県立芸大助教授)「中国から沖縄へ伝わった楽器——御座楽・路次楽——」

II 平成10年度研究業務状況

(1) 二部門以上共通

1. 沖縄伝統文化・芸術に関するデータベース作成のための基礎作業[担当：全員]
2. 沖縄文化と東南アジア少数民族文化との比較のための調査研究
 - A 雲南省民族文化調査（文部省科学研究費助成研究）平成10年8月13日～25日
[担当：加治工真市教授・波照間永吉教授・久万田晋助教授]
 - B ラオス北部地域織物調査 平成10年11月23日～12月9日 [担当：柳悦州助教授]
3. 沖縄県広域学習サービス・リカレントコース（講座名「琉球舞踊入門」）
 - 第1回 平成10年12月3日 板谷 徹(沖縄県立芸大教授)「琉球舞踊の歴史と概要」
 - 第2回 平成10年12月10日 波照間永吉(附属研究所教授)「琉球舞踊とことば(1)」
 - 第3回 平成10年12月17日 波照間永吉(附属研究所教授)「琉球舞踊とことば(2)」
 - 第4回 平成11年1月7日 金城 厚(沖縄県立芸大助教授)「琉球舞踊と音楽(1)」
 - 第5回 平成11年1月14日 金城 厚(沖縄県立芸大助教授)「琉球舞踊と音楽(2)」
 - 第6回 平成11年1月21日 久万田晋(附属研究所助教授)「琉球舞踊と民俗芸能」
 - 第7回 平成11年1月28日 祝嶺恭子(沖縄県立芸大教授)「琉球舞踊と衣裳」
 - 第8回 平成11年2月4日 板谷 徹(沖縄県立芸大教授)「琉球舞踊の構造(1)」
 - 第9回 平成11年2月11日 板谷 徹(沖縄県立芸大教授)「琉球舞踊の構造(2)」

第10回 平成11年2月18日 草野妙子(附属研究所所長)・大谷紀美子
(沖縄県立芸大非常勤講師)「アジアのなかの琉球舞踊」

4. 公開講座(無料)「鎌倉芳太郎と沖縄文化」(全6回)

第1回 平成11年1月25日 外間 守善(沖縄県立芸大客員教授)「鎌倉
芳太郎と沖縄」

第2回 平成11年1月29日 波照間永吉(附属研究所教授)「鎌倉芳太郎
収集の沖縄関係文献資料」

第3回 平成11年2月1日 原田あゆみ(沖縄県立芸大博士課程)「鎌倉
芳太郎撮影写真資料の概要」

第4回 平成11年2月3日 原田あゆみ(沖縄県立芸大博士課程)「鎌倉
芳太郎のカメラアイ」

第5回 平成11年2月8日 外間美奈子(附属研究所共同研究員)「鎌倉
芳太郎資料型紙分類について」

第6回 平成11年2月10日 祝嶺 恭子(沖縄県立芸大教授)「鎌倉芳太
郎の紅型資料収集に至る足跡」

(2) 芸術文化学部門

1. 地域文化の調査研究

A 『琉球国由来記』の研究 [担当:波照間永吉教授]

B 沖縄の神歌の調査研究

C 与那国島の伝統文化の調査研究 [担当:加治工真市教授・波照間永
吉教授・川平成雄調査員・上原孝三調査員・平良勝保調査員・飯田
泰彦調査員・与那覇仁一調査員]

2. 八重山方言辞典作成のための調査研究 [担当:加治工真市教授]

3. 公開講座(無料)「宮古の歴史物語を読む会」(通年、毎週土曜日開催)
[担当:波照間永吉教授 講師:平良勝保共同研究員・上原孝三共同研
究員]

4. おもろ研究会(平山良明代表)開催 [担当:波照間永吉教授]

5. 沖縄文化と日本文化の比較文化学的研究 [担当:ホルスト・S・ヘンネ
マン教授]

(3) 伝統工芸部門

1. 沖縄織物の研究 [担当：柳悦州助教授]
 - A 沖縄染織画像データベース作成のための基礎研究とデータ収集
 - B 沖縄織物の研究
 - C 鎌倉芳太郎収集紅型型紙画像データベース作成と基礎研究
 - D 技法研究
2. ラオスの織物文化研究 [担当：柳悦州助教授]
3. 沖縄伝統工芸の研究 [担当：和宇慶朝健教授・島袋常秀助教授]

(4) 伝統芸能部門

1. 沖縄・奄美の民俗音楽調査研究 [担当：久万田晋助教授]
 - A 沖縄県内エイサーの調査研究
 - B 奄美大島の民俗芸能・音楽の調査研究
2. 沖縄古典舞踊の技法研究 [担当：宮城能鳳教授・久万田晋助教授]
3. 沖縄奄美民俗音楽関係資料の収集 [担当：草野妙子教授・久万田晋助教授]
4. 公開講座（有料）「アートマネジメント」（全11回）

※沖縄県立芸術大学音楽学部・音楽芸術研究科（修士課程）との共催

 - 第1回 平成10年9月21日 中村 透(琉球大学教授)「アートマネジメント概論」
 - 第2回 平成10年9月28日 小池 哲央(沖縄県立芸大教授)「オペラ舞台制作実習（1） 総論／音楽稽古の現場」
 - 第3回 平成10年9月29日 平尾 力哉(オペラ演出家)・小池 哲央(県立芸大教授)「オペラ舞台制作実習（2） 演出の役割／立ち稽古の現場（演技指導）」
 - 第4回 平成10年9月30日 菅野 信也(オフィスバンク)「オペラ舞台制作実習（3） 舞台照明概論／舞台照明の現場」
 - 第5回 平成10年10月17日 垣内恵美子（文化庁文化政策室長）・本杉省三(日本大学助教授)「世界各国の文化政策と日本の文化政策」
 - 第6回 平成10年10月17日 本杉 省三(日本大学助教授)「劇場空間論

（場の理論）と劇場空間——歴史と現代」

- 第7回 平成10年10月18日 中村 透（琉球大学教授）・小池 哲央（沖縄県立芸大教授）・垣内恵美子（文化庁文化政策室長）・本杉 省三（日本大学助教授）「沖縄の地域文化分析 沖縄県内各ホールの状況」（受講者の発表）
- 第8回 平成10年10月28日 小池 哲央（沖縄県立芸大教授）・真栄城忠之（琉球放送）・中村 透（琉球大学教授）・渡名喜元久（佐敷町教育委員会）「アートをプロデュースする二つのケーススタディ」
1）芸大創立10周年オペラ「フィガロの結婚」からキプロス合同オペラ公演への道
2）シュガーホール・町民参加ミュージカル「ぐわんぐわんタンメーチャーがんじゅう」
- 第9回 平成10年11月4日 小池 哲央（沖縄県立芸大教授）・中村 透（琉球大学教授）「アートをプロデュース・公演企画作成」
- 第10回 平成10年11月11日 小栗 哲家（アートクリエイション）「オペラにおける世界のマネージメント」
- 第11回 平成10年11月13日 小池 哲央（沖縄県立芸大教授）・中村 透（琉球大学教授）「公演企画の作成レポートにもとづく受講者全員の討論」

III 主要研究業績（平成9年1月～平成10年12月）

1) 研究所員主要研究業績

1. 著書・編書
2. 論文
3. 作品発表・公演
4. 研究発表
5. 解説等
6. 講演・放送
7. その他

2) 助成研究

1. 平成9年度～10年度において研究代表者、研究分担者となっている
科学研究費研究
 - a 研究代表者となっているもの
 - b 研究分担者となっているもの
2. 沖縄県立芸術大学芸術振興財団助成研究
3. その他

(1) 研究所長

加治工真市（平成10年7月まで所長。教授、兼任教員）

- 1) 2. 「琉球・竹富島方言の基礎語彙——分野1、天地、気候の部——」
『琉球の方言』21 法政大学 平成9年3月31日
2. 「竹富方言の基礎語彙——分野2、動物——」『琉球の方言』22 法
政大学沖縄文化研究所 平成10年3月31日
2. 「波照間方言動詞の活用」『波照間島総合調査報告書——自然・歴史・
民俗・考古・美術工芸——』沖縄県立博物館 平成10年
2. 「久高島方言動詞の活用」沖縄県立芸術大学大学院芸術文化科学研究科
編『沖縄から芸術を考える』沖縄県立芸術大学 平成10年3月30日
2. 「古見方言の基礎語彙」『沖縄芸術の科学』第10号 沖縄県立芸術大学
附属研究所 平成10年3月31日
2. 「琉球方言への誘い——琉球方言の地域性——」『南島文化への誘い』
沖縄国際大学公開講座7 沖縄国際大学公開講座委員会
2. 「沖縄県八重山鳩間方言の文末詞」『日本語文末詞の歴史的研究』藤原
与一・佐々木峻編 三弥井書店 平成10年
6. 講演「琉球方言とその魅力」千葉大学ヨーロッパ総合研究フォーラム
平成9年12月 千葉大学

6. 講演「琉球文化と日本」多言語文化のディスコース——民衆文化と社会と芸術—— 平成10年 千葉大学

6. 講演「琉球方言の正書について」奄美沖縄民間文芸研究会大会 平成10年8月8日 沖縄県立芸術大学附属研究所

2) 1. a 「沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究」平成10～12年度国際学術研究

平成8年業績補遺

1) 2. 「竹富方言音韻の問題点」『音聲學會會報』212号 平成8年

2. 「久高島方言音韻論序説」『日本語研究領域の視点』下 明治書院 平成8年

2. 「波照間方言の音韻研究」『沖縄文化研究』22 法政大学沖縄文化研究所 平成8年2月

草野妙子 (平成10年7月～平成11年3月まで所長。教授、兼任教員 平成11年3月定年退官)

1) 1. 教育芸術社音楽教科書準拠——平成9～12年度用——『中学生の音楽～鑑賞の手引きアジアの民族音楽・世界の民族音楽』(CD 15枚付) ポリグラム株式会社 平成9年2月

1. 監修『沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館 所蔵楽器図録』沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館 平成10年11月1日

2. 「苗代川野陶工たちが伝えた歌「オノリ」～伝承と文化蝕変の姿～」 沖縄県立芸術大学大学院芸術文化学研究科編『沖縄から芸術を考える』沖縄県立芸術大学 平成10年3月30日

4. 「楽器編成から見た朝鮮通信使と琉球江戸上り」復帰25周年記念第3回沖縄研究国際シンポジウム沖縄大会第七分科会「芸能学」 平成9年5月17日 沖縄県立芸術大学

5. 「楽器史的にみた箏・琴・三弦 箏と琴・ロング・ツィター類と竹筒

- *その誕生と変化* *アジアの三弦の分布』『日本音楽の表現～弾く～箏・琴の類』国立劇場 平成9年4月
5. 「ラヴィ・シャンカルの芸術」ラヴィ・シャンカル演奏会プログラム
(東京オペラ・シティ・タケミツメモリアル・ホール) 神原音楽事務所 平成10年1月31日
5. 「アジアの民族音楽」『最新 高校生の音楽1』音楽之友社 平成10年2月
5. 「諸民族の音楽」『最新 高校の音楽2』音楽之友社 平成10年2月
5. 「韓国・伝統芸術の魅力」『韓国・伝統芸術の至宝 名舞名人撰』公演パンフレット 民主音楽協会 平成10年9月
5. 「「ハンの歌、ハンの調べ、ハンの舞い」の公演によせて～その文化交流の意義、そして音楽・舞踊文化の歴史的背景」『ハンの歌、ハンの調べ、ハンの舞い』公演パンフレット (駒場エミナース) NOP ニュー・オペラ・プロダクション 平成10年10月26日
6. 講義「日本音楽通史」NHK邦楽技能者育成会 平成9年4月～平成10年3月 (全18回)
6. 講演「日本音楽の流れ～中国・韓国・ベトナムの伝統音楽を視野に入れる」NHK文化センター 平成10年7月12日、26日、8月23日(全3回)
6. 講演「世界音楽の中の日本音楽～その1 楽器と音楽のスタイルから眺める～」NHK文化センター 平成10年11月22日
6. 講義「日本音楽通史」NHK邦楽技能者育成会 平成10年4月～平成10年12月 (全14回)
7. 「楽器の分布とその系譜～楽器は世界を駆けめぐる」『沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館 所蔵楽器図録』沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館 平成10年11月1日
7. 「朝鮮音楽」『Microsoft ENCARTA CD-ROM百科事典 Encyclopedia99』Microsoft社 平成10年11月

(2) 芸術文化学部門

波照間永吉（教授、専任教員）

- 1) 1. 『定本琉球国由来記』（共編著）角川書店 平成9年4月1日
2. 「竹富町古見のプーリィ」『沖縄県の祭り・行事——沖縄県祭り・行事調査報告書——』沖縄県教育委員会 平成9年3月3日
2. 「『琉球国由来記』の世界——近世沖縄の文物と宗教的世界への導き——」『本の旅人』平成9年5月号 角川書店 平成9年3月15日
2. 「沖縄研究はいま——オモロ研究——」『沖縄タイムス』平成9年7月15・22・29日朝刊
2. 「伊波普猷——「沖縄学の父」の古琉球フォークロア研究——」『アエラムック 民俗学がわかる』朝日新聞社 平成9年12月10日
2. 「南島歌謡とことば——オモロの表現と構造を中心に——」『第3回沖縄研究国際シンポジウム（沖縄大会）レジュメ集』第3回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会 平成9年5月15日
2. 「オモロ対句部の叙述構造」『第3回沖縄研究国際シンポジウム（シドニー大会）レジュメ集』第3回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会 平成9年8月21日
2. 「沖縄八重山の仮面・仮装の神々——神の文芸を考えるための序章——」『沖縄から芸術を考える』沖縄県立芸術大学 平成10年3月30日
2. 「古見のプーリィの祭祀と歌謡」『沖縄芸術の科学』第10号 沖縄県立芸術大学附属研究所 平成10年3月31日
2. 「古見の結願祭と狂言」『沖縄芸術の科学』第10号 沖縄県立芸術大学附属研究所 平成10年3月31日
2. 「『西表島古見の伝統文化の調査研究』を終えるにあたって」『沖縄芸術の科学』第10号 沖縄県立芸術大学附属研究所 平成10年3月30日
2. 「鎌倉芳太郎が集めた琉球文学研究資料」『文学』平成10年7月号 岩波書店
4. 「琉球文学にみる思念と宗教——『おもろさうし』を中心に——」全国家庭裁判所調査官研究協議会ミニ研究集会 in okinawa 講演 平成

9年2月15日

4. 「琉球文学にみる思念と宗教——『おもろさうし』を中心に——」自主
の会定例学習会 平成9年2月27日
4. 「講演とシンポジウム——検証・八重山舞踊の今、そして未来——」
(石垣市制50周年記念石垣市文化協会主催) にパネリストとして参
加 平成9年4月5日
4. 「南島歌謡とことば——オモロの表現と構造を中心に——」第3回沖
縄研究国際シンポジウム(沖縄大会) 文学部会で研究発表・討論に
参加 平成9年5月23日
4. 「琉球文学にみる思念と宗教——『おもろさうし』を中心に——」テル
ウェル沖縄マイライフ講座講演 平成9年6月26日
4. 「『琉球国由来記』の成立と近世の沖縄」沖縄学研究所特別講演会 平
成9年7月22日
4. 「オモロ対句部の叙述構造」第3回沖縄研究国際シンポジウム(シド
ニー大会) 文学・芸能部会で研究発表・討論に参加 平成9年8月
21日
4. 「『琉球国由来記』の成立と近世沖縄の文化」歯立会講話 平成9年10
月31日
4. 「『おもろさうし』からみた首里杜御嶽」海洋博覧会記念公園管理財団
首里杜御嶽研究会 平成9年12月9日
4. 「沖縄の古代文学」国際システム社長研究会講話 平成10年2月6日
4. 「沖縄の気象と文学——南島文学からみた沖縄の気候——」沖縄気象
台講演会 平成10年3月10日
4. 「『王府仕置』と近世八重山の農民」浦添市立図書館沖縄学講座「琉球
の文学と芸能」平成10年3月14日
4. 「玉城村のオモロ」玉城村文化協会講演会 平成10年5月24日
4. 「『琉球国由来記』の説話記事」第81回沖縄・八重山文化研究会 平成
10年5月17日
4. 「浦添を謡うオモロ」浦添市教育委員会校長研修会講演 平成10年5
月28日

4. 「古琉球の想念——オモロと『琉球国由来記』の世界から——」平成10年度社会教育主事研修会・公民館主事研修会講演 平成10年6月3日
4. 「古琉球の想念——オモロと『琉球国由来記』の世界から——」テルウェル沖縄マイライフ講座 平成10年6月18日
4. 「『おもろさうし』と現代」千葉大学国際シンポジウム1998〈多元性のパラダイムを求めて〉第1回「沖縄の新生へ向けて」 平成10年7月11日
4. 「オモロ（神歌）と神話・伝説・世間話——沖縄諸島——」奄美・沖縄民間文芸研究会シンポジウムでパネリストとして問題提起、討論に参加 平成10年8月9日
4. 「しま中オモロを読む」玉城村文化協会文化講座（10回） 平成10年10月21日～12月23日
4. 「八重山研究の現在」沖縄国際大学南島文化研究所第89回シマ研究会 平成10年12月14日
7. 「一人の観客の立場から」『講演とシンポジウム——検証・八重山舞踊の今、そして未来——パンフレット』石垣市文化協会 平成9年4月5日
7. 「美崎の海」『八重山日報』平成9年7月20日朝刊
7. 「私の研究」『第19回沖縄研究奨励賞パンフレット』平成10年1月22日
7. 書評「高橋恵子『沖縄の御願ことば辞典』」『琉球新報』平成10年2月22日夕刊
7. 「ひこばえのなより——県立芸大有志の会公演によせて——」『八重山毎日新聞』平成10年3月5日
7. 「完走記 '98宮古島トライアスロン大会」『琉球新報』平成10年4月21日朝刊
7. 「『おもろさうし』と現代」『千葉大学国際シンポジウム1998／多元性のパラダイムを求めて／第1回沖縄の新生へ向けて』千葉大学大学院社会文化科学研究科 平成10年7月10日
7. 「比嘉いずみさんの飛翔を願って」『比嘉いずみの会パンフレット』平

成10年7月4日

7. 「三木健『沖縄ひと紀行』」(書評)『琉球新報』平成10年9月20日夕刊
 7. 「八重山文化研究会編『八重山文化論集』第3号」(書評)『沖縄タイムス』平成10年11月27日夕刊
- 2) 1. b 「沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究」平成10～12年度国際学術研究 研究代表者：加治工真市

Horst Siegfried Henneman ホルスト・S・ヘンネマン (教授、兼任教員)

2. 「琉球王朝の茶の湯——受容史における喜安の実像と利休流伝来の一考察」沖縄県立芸術大学大学院芸術文化学研究科編『沖縄から芸術を考える』 沖縄県立芸術大学 平成10年3月30日
4. 研究発表「琉球王朝の茶の湯——受容史における喜安の実像と利休流伝来の一考察」茶の湯文化学会第6回研究会 平成9年2月16日 沖縄県立芸術大学

(3) 伝統工芸部門

和宇慶朝健 (教授、兼任教員)

- 1) 3. 沖縄県生コンクリート事業協同組合 ミキサー車色彩計画 平成9年1月
3. 「monument O-G-B」浦添市美術館ワークショップ展 浦添市美術館 平成9年2月
3. 「記憶の風景97-1」第49回沖展 浦添市体育館 平成9年3月
3. 第33回公開ホウラム 木造建築研究ホウラムポスターB2 平成10年2月
3. 「記憶の風景98-3」第50回沖展 浦添市体育館 平成10年3月
3. 「記憶の風景98-5」他7点 大浜英治・和宇慶朝健二人展 ギャラリーサロンドミツ 平成10年6月
7. 浦添市美術館シルクスクリーン版画教室(15回講座) 浦添市美術館 平成10年7月
7. 中・高校美術実技研修講座 沖縄県教育センター 平成10年8月

3. 「記憶の風景98-15」薫風会展 沖縄タイムスホール 平成10年11月

柳 悦州（助教授、専任教員）

- 1) 2. 「御絵図と拵模様」『沖縄県史料調査シリーズ第1集 沖縄の染織(I) 染織品編』沖縄県教育委員会 平成9年3月
2. 「沖縄の紋織物」『沖縄県史料調査シリーズ第1集 沖縄の染織(I) 染織品編』沖縄県教育委員会 平成9年3月
2. 「徳川綱誠所用縞麻羽織と沖縄の織物」沖縄県立芸術大学大学院芸術文化学研究科編『沖縄から芸術を考える』沖縄県立芸術大学 平成10年3月30日
2. 「鎌倉芳太郎収集染織関係資料目録——紅型型紙の部——」『沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵 鎌倉芳太郎資料目録』沖縄県立芸術大学附属研究所 平成10年3月
3. 「経ずらし拵着物」第71回《国展》 東京都立美術館 平成9年4月
3. 「経ずらし拵手綱紬着物」第72回《国展》 東京都立美術館 平成10年4月
4. 「徳川綱誠所用縞麻羽織と沖縄の織物」第4回沖縄染織研究会 沖縄県立芸術大学附属研究所 平成10年1月23日
4. 「ラオスの織物文化調査報告」第6回沖縄染織研究会 沖縄県立芸術大学附属研究所 平成10年5月15日
4. 「イランの機織り技術について」第9回沖縄染織研究会 沖縄県立芸術大学附属研究所 平成10年11月20日
6. 講演「ラオスと沖縄の織物」沖縄県立芸術大学附属研究所落成記念講演会 沖縄県立芸術大学附属研究所 平成10年6月27日
7. ラオスビエンチャンおよびビエンチャン西北部織物調査 平成9年3月19日～29日
7. イラン織物調査 平成10年9月6日～10月5日
7. ラオス北部地域織物調査 平成10年11月23日～12月9日
- 2) 1. a 「沖縄染織文化の比較研究のための画像データベースの基礎的構築」平成8～10年度 研究代表者：柳悦州

1. b 「沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究」平成10～12年度国際学術研究 研究代表者：加治工真市
3. 「シルクロード沿い諸国の織機の総合研究」シルクロード学術研究センター課題研究 平成10年～11年度、研究代表者：前田亮

(4) 伝統芸能部門

宮城能鳳（教授、兼任教員）

- 1) 3.平成9年3月 平成8年度重要無形文化財組踊伝承者研修発表会に於て「二童敵討」を指導。
- 3.平成9年3月 県指定沖縄伝統舞踊技能保持者公演「高平良萬歳」を踊る。
- 3.平成9年4月 国指定組踊特別鑑賞会～三重県公演～「二童敵討」「天川」を踊る。
- 3.平成9年4月 NHK沖縄放送局・県教育委員会主催、組踊特別鑑賞会「～至芸への招待～」「孝行の巻」に出演（母役）。
- 3.平成9年5月 国立文楽劇場主催、琉球舞踊と組踊鑑賞会出演 組踊「執心鐘入」（宿の女）。
- 3.平成9年10月 国指定組踊特別鑑賞会～青森県公演～「雪払い」（母役）。
- 3.平成9年11月 平成8年度沖縄県立芸術大学第7回邦楽定期公演に於て、組踊「花売の縁」指導。
- 3.平成9年11月 朝日新聞社主催、琉球の風宮廷楽劇「組踊」公演 「銘苺子」（天女）、「執心鐘入」（宿の女）、「女物狂」（母）に出演。
- 3.平成9年11月 キングレコード株式会社に於て、組踊「名場面集」CD録音 「銘苺子」「執心鐘入」「女物狂」「手水の縁」。
- 3.平成9年11月 静岡音楽館AOi主催、琉球伝統芸能公演に於て、組踊「萬歳敵討」、舞踊「諸屯」を踊る。
- 3.平成10年1月 沖縄県かりゆし芸能公演、琉球舞踊への誘い～迎春の舞～に出演、「天川」を踊る。
- 3.平成10年1月 石川県立美術館主催～日本のわざと美展～、重要無形

- 文化財とそれを支える人々「沖縄古典芸能とお話」に於て、「天川」「高平良萬歳」を踊る。
- 3.平成10年1月 NHK沖縄放送局主催、沖縄の歌と踊りスペシャル「伝統芸能へのいざない」に出演、組踊「萬歳敵討」（妻の役）、舞踊「加那よう天川」を踊る。
- 3.平成10年2月 長野オリンピック国際ユースキャンプ沖縄県立芸術大学芸能公演の団長として参加。
- 3.平成10年2月 沖縄県立芸術大学学内演奏会に於て、組踊「執心鐘入」を指導。
- 3.平成10年3月 平成9年度伝統組踊保存会定期公演に於て、組踊「雪払い」に出演。
- 3.平成10年3月 石川市教育委員会主催「春の芸術祭」に於て、組踊「手水の縁」を指導。
- 3.平成10年3月 沖縄県立芸術大学第5回卒業演奏会に於て、組踊「花売の縁」を指導。
- 3.平成10年3月 野村流音楽協会組踊地謡研修部第16回研修発表会「組踊と舞の夕（うむい）」に於て、組踊「手水の縁」に出演（玉津役）。
- 3.平成10年4月 金武町教育委員会主催「組踊と琉舞への誘い」に於て、組踊「手水の縁」（玉津役）、舞踊「天川」を踊る。
- 3.平成10年7月 韓国済州島文化交流フェスティバルへ参加、団長を務める。
- 3.平成10年9月 重要無形文化財平成10年度「組踊特別鑑賞会」山形県公演に於て、組踊「奇縁の巻」（をなぢやら役）、舞踊「天川」を踊る。
- 3.平成10年11月 平成11年度沖縄県立芸術大学邦楽定期公演に於て、組踊「手水の縁」を指導。
- 3.平成10年11月 NHK沖縄放送局主催、第46回沖縄の歌と踊りのつどい「伝統芸能へのいざない」に於て、組踊「花売の縁」出演及び指導（薪木取役）。
- 3.平成10年11月 平成10年度沖縄県芸術祭「琉球舞踊公演」に於て、「金細工」を踊る。

- 3.平成10年12月 重要無形文化財平成10年度「組踊特別鑑賞会」香川県公演に於て、「二童敵討」（二童の役）。

久万田晋（助教授、専任教員）

- 1) 1. 『エイサー360度 歴史と現在』（共著）那覇出版社 平成10年
 2. 「九十年代沖縄ポップにおける民族性表現の諸相」沖縄県立芸術大学大学院芸術文化科学研究科編『沖縄から芸術を考える』沖縄県立芸術大学 平成10年3月30日
 2. 「沖縄ポップの展開」『SOUTHERN WIND 南ぬ風』通巻十五号(エッセイ風水コーナー) トロピカルテクノセンター発行 平成10年
 2. 「楽器分類について」『沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵楽器図録』 平成10年11月
 4. 「沖縄ポップの潮流——ポピュラー音楽における沖縄エスニシティ表現——」沖縄民俗学会例会 那覇市：首里公民館 平成9年1月26日
 4. 「沖縄ポップにおける民族性表現の諸相」復帰25周年記念第3回沖縄研究国際シンポジウム沖縄大会第七分科会「芸能学」 那覇市：沖縄県立芸術大学 平成9年5月17日
 4. 「沖縄ポップにおけるリズム構造の発展」東洋音楽学会沖縄支部第20回定例研究会 那覇市：沖縄県立芸術大学 平成9年6月28日
 4. 「琉球旋法」概念の成立過程——戦前の山内盛彬の音組織を中心に——」東洋音楽学会第48回大会セッション「20世紀前半の日本におけるアジア音楽研究の構図」 仙台市：宮城教育大学 平成9年11月9日
 4. 「沖縄ポップの形成と変容」中部高等学術研究所共同研究会「アジア諸都市における伝統文化とその変容——ポピュラーカルチャーの形成——」 名古屋市：名古屋国際センタービル 平成10年2月28日
 4. 「沖縄ポップにおける民族性表現」日本音楽学会大会シンポジウムII「音楽学からみたポピュラー音楽」にパネリストとして参加・発表 名古屋市：愛知芸術文化センター 平成10年11月8日
 4. 「エイサー研究の現状と課題」第79回沖縄文化協会総会・公開講演・

- 研究発表会 東京：角川本郷ビル 平成10年11月21日
4. 「民族芸能エイサー～研究の現状と今後の課題～」東洋音楽学会沖縄支部第24回定例研究会 那覇市：沖縄県立芸術大学 平成10年12月5日
 6. 講演「楽器の分類法——古代から現代まで——」沖縄県立芸術大学附属研究所平成9年度公開講座「アジアの楽器に見る音楽文化」(全10回) 第1回 那覇市：沖縄県立芸術大学 平成10年1月30日
 6. 講演「楽器の構造と分布」沖縄県立芸術大学附属研究所平成9年度公開講座「アジアの楽器に見る音楽文化」(全10回) 第2回 那覇市：沖縄県立芸術大学 平成10年2月2日
 6. 講演・ビデオ解説「与論島十五夜踊、龍郷町秋名のショチョガマ・平瀬マンカイ」沖縄で奄美を考える会第4回研究例会 那覇市：沖縄県立芸術大学 平成10年11月28日
 7. シンポジウム記録「日本とその周辺の民俗音楽研究」『民俗音楽研究』第19号（日本民俗音楽学会第9回大会シンポジウム記録） 平成9年
 7. エッセイ「落ち穂」『琉球新報』平成9年1月6月 12回連載
 7. シンポジウム記録「奄美音楽の継承と発展」『民俗音楽研究』第20・21合併号（日本民俗音楽学会第10回大会シンポジウム記録） 平成9年
 7. ラウンドテーブル記録「カサン歌とヒギャ歌——奄美のシマ歌の2つのタイプ——」『民俗音楽研究』第20・21合併号 平成9年
 7. 発表要旨「沖縄ポップにおけるリズム構造の発展」『社東洋音楽学会沖縄支部通信』No.19 平成9年11月26日
 7. 評論「変容するミュージックシーン 沖縄ポップ脈々と」『沖縄タイムス』平成9年5月13日（沖縄復帰25周年特集）
 7. 研究発表記録「沖縄ポップの形成と変容」『中部高等学術研究所共同研究会「アジア諸都市における伝統文化とその変容」——ポピュラーカルチャーの形成——』中部高等学術研究所 平成10年
 7. エッセイ「読書の勧め 私の読んだ2冊」『沖縄タイムス』平成10年11月1日号第9面
- 2) 1. a 「沖縄・奄美の音楽芸能に関するマルチメディアデータベースの構

築」平成9～10年度奨励研究A

1. b 「沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究」平成10～12年度国際学術研究 研究代表者：加治工真市
1. b 「沖縄におけるエイサー芸能の動態の総合的研究」平成9～11年度基盤研究C 研究代表者：板谷徹